

第 37 回 下呂市上下水道運営委員会

【議事録】

1. 開会（事務局 部長 今村正直）

これより第 37 回上下水道運営委員会を始めます。

2. 会長あいさつ

今回の委員会の開催について、市長をはじめ、関係各位にご足労いただきありがとうございます。前回の会議に引き続き、埼玉県の事故やインフラの老朽化が全国的な課題となっており、インフラ維持のためには、利用者による一定の負担が不可避となる時代になったという認識が、最近の報道等から強く感じられます。アメリカの動向、市民目線、事業者の視点からは、物価や経費の高騰が厳しい問題であると感じています。上下水道事業を将来にわたり持続可能なものとするために、今回の料金改定の検討は非常に重要です。そろそろ料金改定の本丸部分に入り、どのように改定していくか議論をしていく時期かと思えます。皆の意見を聞きながら、より良い方向に進むような議論となるようご協力をお願いします。

3. 市長あいさつ

上下水道事業の現状について、このままでは維持が困難な状況であることを認識しています。本年より策定を進めてきた第 3 次総合計画が令和 7 年 4 月から 16 年間の計画としてスタートしています。2040 年の下呂市の人口は推計で 1 万 9000 人となり、現在から約 1 万人の減少が見込まれます。人口減少が進む中で、上下水道をいかに維持していくかが重要な課題です。下呂市は広大な面積にわたり、管路が非常に長いという地理的特性があります。上下水道の基幹施設は老朽化が進んでおり、耐震化も喫緊の課題です。将来的な人口減少を考慮すると、コンパクトな街づくりを進めていく必要があります。市の重点目標として、人口減少対策、街づくり、行財政改革を掲げています。市民生活に不可欠な生活インフラを守るためには、市民の皆様のご協力が不可欠です。昨年、上水道と簡易水道の料金統一を実施しました。今後、料金の値上げは避けられないと考えていますが、段階的な実施を検討しています。料金改定にあたっては、市民や業種間における負担の公平性を十分に考慮する必要があります。前回会議で議論された差額と改定率について、修正案を再度検討し、委員の皆様からの貴重なご意見を伺いながら、より良い解決策を見出したいと考えています。委員の皆様には、その重要な役割とご負担について、ご理解とご協力をお願いします。

4. 協議事項

・下水道使用料金改定について（1～5P）

事務局より資料に基づき説明

〈質疑応答〉

Q（委員）

合併処理浄化槽を利用している旅館などの未加入者は料金設定に含まれているか？未加入者が加入すれば料金収入が増え、家庭の負担を増やさなくても済むのではないか。未加入の旅館に加入を促す努力をしてないのか。

A（市長 山内・上下水道部長 今村）

現在の加入率は85%（令和5年度）で、収入は約5億円です。単純計算で100%加入すれば約9千万～1億円の収入増は見込めます。しかし、人口減少を考慮すると、仮に100%加入しても今後料金改定をしていく必要があります。下水への加入促進については市として努力していきます。

Q（委員）

旅館などの大口使用者の1m³あたりの単価は、現行料金では使用量が増えても143円が変わらない。これは使用量が多いほど単価が安くなる設定になっているのではないか。お客さんが来て多額のお金を払って下水を使っているのだから、そこも考慮すべきではないか。料金の取り方には入湯税のようなものもあるため一概には言えないが、維持のためには負担も考える必要があると思う。ある程度の考慮は必要だけれども、今の案だとかなりの差が出てくるのではないか。

A（上下水道部長 今村）

当初案を設定する際、300m³以上の使用者は大口（旅館、病院、福祉施設など）であり、使用量は全体の約3割を占めています。こうした大口（旅館、病院、福祉施設など）の施設に対して、一律同じような負担を求めるのは難しいと考え、300m³で線を引いて単価を下げる設定としています。

C（会長）

大口使用者の中には、旅館のように事業努力で収益を上げられるところもあれば、老人ホームや病院のように国で報酬が決まっている施設もあり、費用負担が増えると経営に支障が出る可能性があります。こうした施設については、やはりある程度の配慮をしていく必要があると思います。

Q（委員）

現在の料金設定と変更案での料金設定ではどれくらい変わるのか。

A（下水道課長 谷田部）

現在の料金設定は基本料金が10m³までで1,715円です。11m³から1m³使うごとに143円追加でかかります。仮に20m³使った場合には基本料金1,715円と超過分10m³

×143円がかかるというのが今の料金設定になります。次に変更案では、基本料金が10^mまでで2,300円です。11^mから1^m使うごとに255円かかり、300^mから1^m超えるごとに165円かかる設定になっております。

C (委員)

今回の変更案(赤色)は、前回の少量使用者の負担が大きいという意見を考慮してくれたと思う。使用量に応じた右肩上がりのグラフが理想かもしれないが、観光客や病院など通常の生活人員以外の要素が絡む部分への配慮は当然必要だと思う。特に一人暮らしの高齢者などは、年間で1万、2万も上がると厳しいと思う。

C (委員)

実家が浄化槽なんですけど年間5万5千円ほど負担をしており、今回の値上げ案でも少量使用者の負担はそれに近いと感じる。そう考えると、料金が上がっても仕方ないかなとも思う。浄化槽の費用と比較すれば、下水道の方がはるかに安い。

C (委員)

浄化槽から下水道への切り替えの話も出ているが、あまり下水道料金が上がると、浄化槽のままの方がお得になり、切り替えが進まなくなる可能性がある。この点も考慮して料金設定を近づけることも一理あると感じる。

C (委員)

下水道は衛生的で便利だが、維持には費用がかかる。埼玉県事故を見た時に、もし下呂で起きたら大変だと感じた。災害時に上下水道が使えなくなると非常に困る。今私たちの世代で負担せず、子供や孫の世代に何倍もの負担がかかるよりは、少しずつでも私たちの世代で負担していく必要があると思う。

Q (委員)

現在の300^mを境にした区切りは適切か。使用量が多い層での区切りはもっと細かく細分化して段階をつけた方が良いのではないか。

A (上下水道部長 今村)

水道料金は80^m、500^m、1000^mで区切るなど、より細かく設定しています。これは一般家庭の最大使用量(80^m)、中口(500^m近く)、大口(1000^m以上)などを考慮した区切りとなっています。下水も同じように細分化することは可能です。

Q (委員)

段階的に上げていくとのことだが、どのくらいの年数を想定しているのか。

A (上下水道部長 今村)

今後水道料金の改定も視野に入れているため、下水と水道を交互に改定していく場合、例えば3年に2回(下水→水道→1年休み)だと下水は6年間で最終段階になるペースです。毎年改定すればもっと早いペースも可能ではありますが、月に200円の増額は負担に感じる方がいると思います。

・水道使用料金改定について（6P）

事務局より資料を基に説明。

〈質疑応答〉

Q（委員）

表の収支予測には人口減少の影響は含まれているか。

A（上下水道部長 今村）

直接人口減少として計算されているわけではありませんが、水道使用量が年々減っているのは人口減少によるものであり、それを見込んで計算しています。ただし、施設維持費は使用量に比例して減るわけではありません。人が集中している地域（重要給水拠点）の耐震化を優先的に進める計画ですが、それでも多額の費用がかかります。

Q（委員）

まだ下水道が整備されていない地域（合併処理浄化槽のままの地域）もあるが、そうした地域に今後下水道を作る計画はあるか。

A（上下水道部長 今村）

新たに下水道を作る計画はありません。逆に廃止を検討する方向性でおります。

7. 次回の上下水道運営委員会の開催日について

次回上下水道運営委員会は7月頃を目途に開催予定。

8. 閉会